所報

美　濃　市　教　育　研　究　所
第３２０号平成２５年１２月２０日発行
電　話（０５７５）３５－２３３４
ＦＡＸ（０５７５）３５－３１３４
e-mail：kyouikuken@city.mino.lg.jp

日本の学力　Ｖ字回復

（第３７回美濃市小学校音楽会より）

先日、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）が６５カ国・地域の１５歳の男女約５１万人を対象として実施した、２０１２年の国際学習到達度調査（ＰＩＳＡ）の調査結果が発表されました。

日本は、前々回０６年・前回０９年の調査結果と比べ、

・「読解力」が　　１５位→８位→４位
・「科学的応用力」が　６位→５位→４位
・「数学的応用力」が１０位→９位→７位　と上昇しました。

文部科学省は、０８年の学習指導要領の改訂や「脱ゆとり」で学習内容と授業時間を増やした施策が好成績の要因とみています。

小中学校で討論形式やリポート作成といった、思考力や表現力を育む授業が重視されるようになったこと。生徒の理解度に応じてグループ分けする習熟度別指導の全国的な普及など。また、教育現場に指導の検証・改善を促す目的で、０７年以降、全国学力・学習状況調査も実施されるようになったことなどが学力水準を底上げするのに役立ったのではないかと分析しています。

今後、こうした取り組みを着実に進め、学力の定着とさらなる向上を図ることが重要となります。

美濃市の学校でも、児童生徒のために指導改善の努力がなされている。

美濃市では、「自ら学び自ら考える力」を一人一人に培う指導をするという方針のもと、学習指導の充実に向け、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれを活用する能力の育成を図り、個性をさらに伸ばす指導」を充実するために

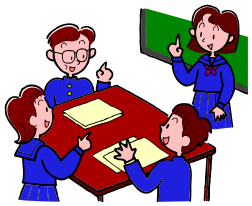
・ねらい、手立て、評価規準を明確にした授業実践
・学習意欲を高め、学び合う学習集団づくり
・個に応じたきめ細やかな指導、少人数指導による授業改善　を重点に取り組んでいます。

その結果、９割近くの児童生徒に「規範意識」があり、小中とも「授業が分かる子」や「授業中によく考えたり話したり書いたりしようとする子」が多いという調査結果が出ています。

さらに、全国的に「読書好きの子は、学力が高い」「図書館司書の配置がある学校は、学力が高くなる」という傾向にありますが、美濃市では、両方とも充実して実施されており、さらなる学力向上の要素があります。

さらに子どもたちの学力を伸ばすには。

美濃市には、児童生徒が活躍する姿を視覚的に実感できる場が多くあります（創造展・音楽会・士幌交流事業・図書館サミット・英語スピーチコンテスト等々）。さらに、日頃の授業で「生き生きと活動する子」に加えて「じっくりと思考し、表現する子」をめざして、



１，児童・生徒がイメージできるよう、「量」だけでなく、「質」も明示する。
２，幾つかの資料を関連させて考える学習活動を積み重ねる。
３，学習した実感を、指導事項に関わって自覚化させ、６年間、９年間をかけて繰り返して学習ができるように、教師が心がける。
４，基礎基本が定着するような学習活動と、その見届けをする。

などを心掛けていけたらと考えます。学年のまとめの来学期、さらには、次年度の学力の向上をめざして、各学校で学習指導の充実に向けた、さらなる指導改善への取り組みに期待いたします。

平成２６年度　岐阜県の教員研修の基本構想　（県教育総合センター案）

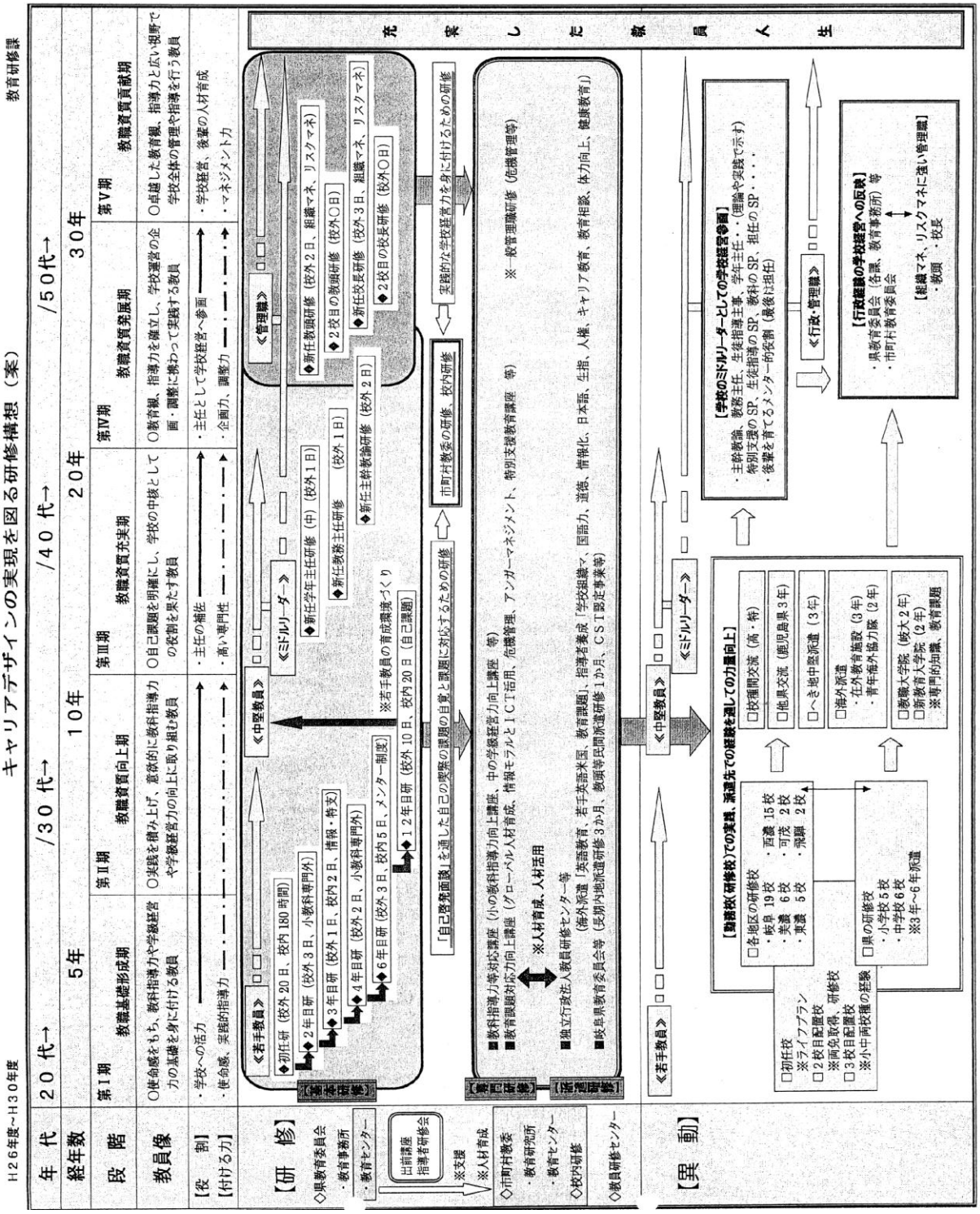
１１月２６日、県教育総合センターの「岐阜県内教育研究所連絡調整会議」にて、Ｈ２６年度の県の教員研修案が示されました。

基　本　方　針　「キャリアデザインの実現をめざして学び続ける教職員の育成」

基本コンセプト　「実践的指導力」

研　修　の　重　点　①管理職の学校経営力の向上　②若手教員の実践的指導力の育成
③喫緊の課題に対する対応力の向上　④派遣型研修等による市町村・学校への支援

◎キャリアデザインとは、下記のような考え方です。（横向きで申し訳ありませんが、自分の関係すると思われる所に、マークしてみてください。）



Ｑ－Ｕ学級評価法研修講座　１１月２６日（火）

講師：恵那西中学校　郷田　賢　教諭　　受講者　１１名

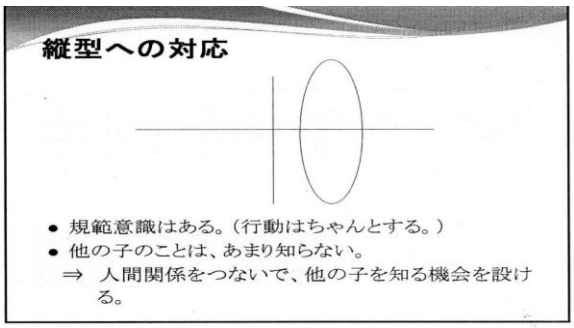
当日は、郷田先生から「Ｑ－Ｕ式学級評価法」の分析・活用について、先生の取り組まれた事例を含みながら大変分かりやすく指導していただきました。受講者からは、

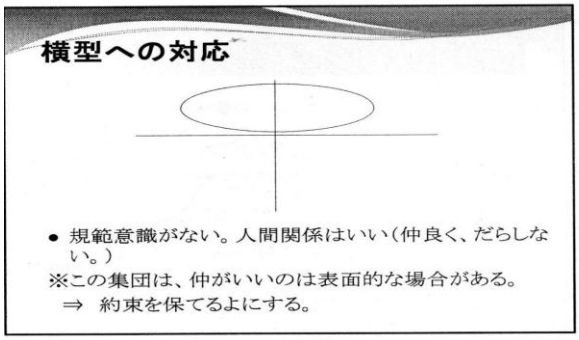
・今回は特に、担任一人でも検討・対応していけるように見直しシートと対応策シートを紹介してくださり、それをもとに無理なく身近な所から始めていく方法を学ばせて頂きました。全職員で時間をかけてじっくり検討していくのはなかなか難しいのが現実、現場の実態に応じた多様な実践例が参考になりました。

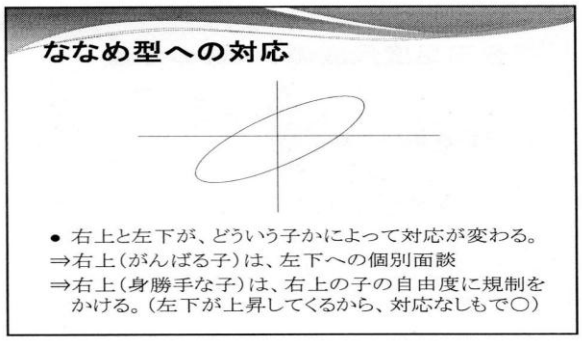
・Ｑ―Ｕ講座に数回参加させて頂き毎回学び得ることがあります。特に今回は郷田先生の実践に基づく講話ということで、とても参考になりました。一人一人のプロットには、位置している意味があり、その裏側（背景）を知ることが大切であること。また、学級の型から単純に方法を考えるのではなく、個人個人や集団の実態をふまえた上に、活動を仕組むことが大切であることを学びました。

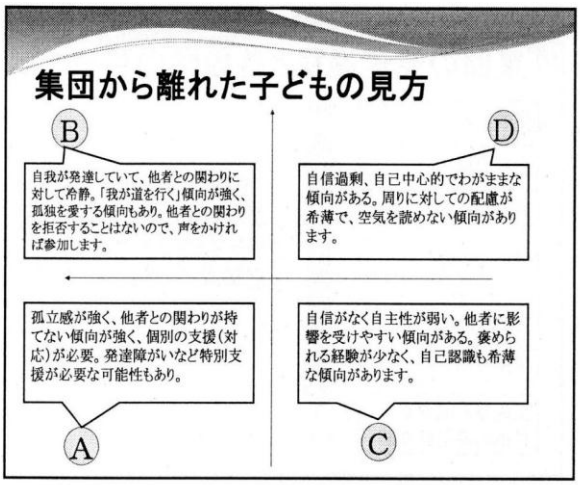
などの感想がありました。

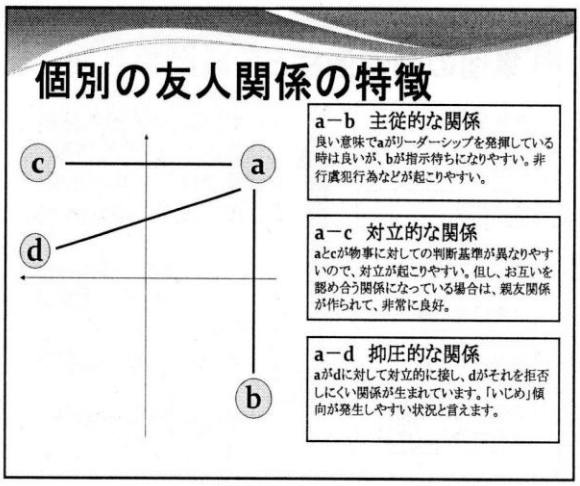
下記に講座の資料の一部を掲載させて頂きます。また、具体的事例の参考図書として、先生も執筆された「ゆるみを突破学級集団づくりエクササイズ」河村茂雄・武蔵由佳編著（図書文化）を紹介して頂きました。是非各校でも、２回目のＱＵ結果を有効に生かして頂きたいと思います。











美濃市人権教育講演会（１２月５日１９時～）

講師：松田孝弘　岐阜県人権教育協議会長　（美濃市中央公民館にて）
「同和教育から人権教育へと名称は変わったけれど・・・」と題して、
１，同和教育から人権教育に至るまでの経緯：（明治４年の「解放令」からはじまって、同和問題の解決をめざす関係法律の成果と課題）
２，岐阜県の県民意識調査から：①子ども②高齢者③インターネット・・
３，これからの人権教育　などについて講話をしていただきました。

Ｈ２４年度の調査では、同和問題については「学校の授業で教わった」が前回調査の「家族や親戚の人から聞いた」や「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」を抜いて、もっとも高くなっています。学校における人権教育の重要性がますます、高まっています。是非、本年度配布の冊子「人権ア・ラ・カルト」なども読んで、私達自身の人権意識を高めていきたいものです。

研究所指導員の公開授業（１２月１２日（木））

◎澤田　小百合　大矢田小教諭　１年生・道徳　参観者４名

終わってから、温かい気持ちになる授業でした。澤田先生の穏やかな話し方、しっかり聞いて、しっかり話せる子どもたち。義務教育スタートの１年生の見事な姿でした。

学期末のお忙しい中で授業を公開して頂いたことに感謝と、参観頂いた４名の先生方や送り出して頂いた学校に感謝致します。

（参観者の感想）
・板書に資料が最初から貼ってあり、読み聞かせの後にどの場面で感想を持ったかを児童のネームプレートを貼るという道徳の学び方が定着していてすばらしいと思いました。
・感想の書き方も資料の感想①、自分への発展②と書いているところもいいなと思いました。
・全員が自分の考えを発表できているのは、他の授業でも理由をつけて話すことが意識されているのでできることだと思いました。

① ２５年度の研究所講座の反省アンケートへのご協力ありがとうございました。
② 教育実践記録提出期限　１月７日（火）　教育研究所までお願いいたします。

雑感　～　ごちそうさんのうらには　～

先生方には、申し訳ないが、ＮＨＫの朝ドラマ「ごちそうさん」を見るようになりました。前作の「あまちゃん」にも負けず、人気があるそうです。私も、つい引き込まれて、見てしまいます。「御馳走」とは、多くの人が走り回って食材を集め食事の用意してくれることが語源とか。どんな困難にぶち当たっても絶望の淵に立たされても「食べたい気持ちが強いのは、生きる気持ちが強いってこと」とそんな信念の強い女性の出来事がいっぱい詰まったドラマです。

ところが、私は今まで何気なく見ていましたが、先日、毎週のテーマに込められた謎の料理言葉があることを教えられました。第１週「いちご一会」第２週「黄身と出会った」第３週「なっとうくう！」第４週「こころをコメて」第６週「こんぶねーしょん」第８週「ごめんなすって」等々、なるほど。

１２月の校長会の教育長さんのお話で「冬休み、子どもたちに、家のため家族のために、どんどん進んでお手伝いをしてほしい。お手伝いをたくさんやる子は学力が高いそうです。」と。そして『手伝うよ　何度も　どんな用だって』の回文を示されました。「てつだうよなんどもどんなようだつて」

今年も残すところ、あと１０日ほど。いろいろあったけど、正月はゆっくり頭の体操でもして、脳を活性化してみてはどうでしょうか。私は「怒りを超え、子を理解」し「今朝飲んだ件の酒」は忘れて「２×（１７２＋２３１）＝１３×６２＝２６×３１＝（１３２＋２７１）×２」の計算でもして「新年会行かん年始」で過ごしたいと思っています。

年末年始、心も体もしっかりリフレッシュして、よいお年を迎えください。